

特任検事

平成15年度 任官

【経歴】

平成 3年	検察事務官	採用
平成11年	副検事選考試験	合格
平成12年	副検事	任官
平成14年	検察官特別考試験	合格
平成15年	検事	任官

これまでに
関東・関西・東海・中国地方
の勤務経験あり



検事として働かせていただいております

事件関係者のご協力，警察等のご努力による証拠の獲得や，検察庁の上司からのご助言・ご指導，検察事務官の支援に感謝の気持ちを忘れず，与えられた立場を踏まえて，真摯に，誠実に執務しなければならないと思っています。

また，事件を担当すれば，**ここで諦めれば真相が闇に消える**と覚悟して臨んでいます。

インタビュー

Q.検事を目指したきっかけを教えてください。

執務をすることにより，「より良き社会に奉仕したい」，「日本社会を支えている」ということを実感したいと考えたからです。

従前から，社会正義を実現することにより，より良き社会を醸成する一助に寄与したいと思っていましたが，大学（法学部）を卒業して，他の捜査機関に入ったものの，**より直接的に社会正義に寄与したい**と考え，ご縁もあり検察官に任官する志を持って，検察庁に入ることになりました。

検事を目指すこととなったのは，立会事務官として検事と協働していた際，検事の捜査等により，目の前で次々と事実が明らかになっていき，こんなことがあるのかの連続で，このような世界があるのかと思い強く惹かれました。

Q.業務内容や達成感を味わった経験などを教えてください。

事件が解明できたときに達成感を得ます。

自ら主任検察官として担当した事件では、プロスポーツ界を揺るがせた賭博事件、最高裁判所で決定がなされた連続放火等事件、暴力団の抗争発砲事件で投棄されてから相当な期間を経過した水路から、けん銃を発見するなどして全容を解明できた事件、時効直前に何とか処罰を求めることができた業務上横領事件、死因を判明し難かった事件など、苦労したことが印象に残っています。

また、応援検事として、大規模な列車を巡る事故や、組織的殺傷事件に関与させていただくと、「使っていただけた。」と感ずることができました。

さらには、**立会事務官と共に戦っている**と実感するときは充実感を得ることができますね。

Q.検察庁の検察官や検察事務官の魅力はどういったところにありますか。

検察庁の職員は、一般の方が一生に一度経験するかしらないかのような非日常を取り扱うことが多いと思われます。まず、そのような緊張感のある日々の執務に携わることが、かなりの魅力になります。

また、司法修習生などからも「検察庁は、体育会のようなのですか。」と質問されたりしますが、チームプレイをするという意味では、確かにその側面がありますが、検察官、検察事務官というような立場などにこだわらず、**社会正義を実現するため**に自由闊達に意見交換ができる、正義を目指して検察全体が協働しているという雰囲気は素敵です。

検察事務官から、希望や能力を踏まえ、副検事や検事に任官できますし、検察官としても、実力に応じてきちんと評価していただけるのも魅力的です。

あしがき

【特任検事とは】

3年以上※副検事の職にあつて、検察官になるための特別の試験（検察官特別考試試験）に合格した者のことをいいます。

なお、検事（特任検事も含みます）は、最高検察庁・高等検察庁及び地方検察庁などに配置され、捜査・公判及び裁判の執行指揮監督などの仕事を行っています。

※副検事とは

3年以上特定の公務員の職にあつて、副検事になるための特別の試験（副検事選考試験）に合格した者のことをいいます。



検察官が身に付けている

「秋霜烈日」バッジ

「秋霜烈日」（しゅうそうれつじつ）とは、秋におりる霜と夏の厳しい日差しのことで、刑罰や志操の厳しさにたとえられています。